

とびきりの笑顔に魅了される

森嶋さんの笑顔はどこからくるのかと思うほど、いつも自然にほころんでいます。仕事の話も勢いがあっていかにも楽しそうです。その笑顔に救われて、相談した悩みは吹っ飛んでいった気さえしたことがあります。経営者はこんな笑顔を毎日社員に見せたいものだと思ってしまう顔をしているときの自分を思い出します。

八尾飛行場近くの工場には機械音が響き、飛行機の騒音はまったく気になりませんでした。取材に訪れた春先は工場の室温も爽やかな風を取り入れ快適でしたが、夏になると相当過酷な環境になりそうな金属熱処理加工の現場です。

ときどきバッチ式焼き入れ炉（注・写真）から高い炎がブワッと上がり、高温になった製品がオイルをくぐって冷まされていく臭い、そんな機械操作の途中でも来客に笑顔で接する社員さんには森嶋さんの心意気が十分に伝わっているようです。



経営理念を作ることから始める

大学卒業後商社の営業をしていた森嶋さんは、1990年円高で仕事が激減する経済状態の中、理化学工業に入社しました。社長に就任したのはお父様の創業から32年目の2001年でした。経営理念を作るところから始まった社長業。「私たちは、社会から高い評価を得るために努力を惜しみません」理念の大綱に掲げるのは便利さと高い品質、幸せのために共に汗を流すチームとなること、人々の安全安心快適の輪を広げていくことが綴られています。

事務室に多くの表彰状が飾られているのを見上げると、ほとんどが社員に対するものであり、永年勤続感謝状や特殊技術の試験の合格証でした。経営理念を遂行することの難しさと、社員一丸となるためにはとの問いかけに「一人ひとりに語りかけること」と答えます。1年以上もかけて作り上げた評価シートで、必ず一人ひとりと向き合う面談をすることにより、社員の悩みや生活が見えてくる。それは賃金制度の見直しや労働環境改善の取り組みとなり「自立型社員」による企業風土の改革を目指してきました。そして3年、企業の変革は顕著に表れていきます。

「KANSAIモノ作り元気企業100社」に選抜

就任から3年後、2004年にはISO9001：2000認証取得。KES環境マネジメントシステムスタンダード・ステップ1認証取得（2013年にステップ2認証取得）。その2年後2006年には大阪府品質管理推進優良企業表彰。経済産業省のIT経営百選最優秀賞を受賞。2009年経済産業省の雇用創出企業に選出。同じくIT経営実践企業の認定などを受けています。

この精力的な認定取得の活動と受賞はまさしく企業のブランド力を高め、広告以上の宣伝力を持ち、体力を増し、業務領域も拡大していきました。大阪ものづくり優良企業賞に続いて2011年には「KANSAIモノ作り元気企業100社」に選抜されました。



タイにて熱処理合弁企業を設立

中国、ベトナムと中小企業の海外進出が計られる中、森嶋さんはタイに進出することを同友会の中で聞いていました。産学官の取り組みで会内でのタイ経済視察旅行などにも参加し、現地商工会との交流なども行われています。森嶋さんは進出先としてのタイという国をよく知るため「毎月タイに行く」と決めて、毎月タイに出かけていたそうです。

中小企業の海外進出は、投資費用やノウハウにおいてそう簡単なことではないと思っていました。理化学工業側が51%出資、現地社長を出す要件の合弁会社の設立は2013年12月に実現されました。タイの鋼材商社ジュタ・ワン・メタル社と現地に合弁会社を設立し、同社の子会社が所有する金属熱処理メーカーの工場を新合弁会社が買い取ることで生産の根拠地を確保したということです。技術指導は理化学工業が行い、現地での熱処理加工を受注し、顧客先は現地日系企業に向けられます。

初期投資を抑えながら、すぐにも生産に掛かれる方法を選んだことや、現地へ出向いて仕事をしたいと言ってくれた社員がいたこと、これからのタイの展望などを話しました。

（2013年7月8日の日刊工業新聞に理化学工業のタイ進出が掲載されています）

未来へのビジョン

理化学工業は日本と海外の両軸体制を取ることをビジョンに掲げ、邁進していきます。日本では、熱処理、塗装に続き、環境にやさしい高耐食性コーティング「ジコラム」やニッチな機能性表面処理技術の開発に取り組み、技術の幅を広げていきます。

また、幅広い協業ネットワークとあわせて、素材改質から表面処理まで、さまざまな技術の組み合わせでmade in Japanのブランドを守ることを使命としています。

タイでの事業に関しては、日々タイで仕事をさせてもらっていることを感謝し、タイの人たちのためになる会社でありたいと願ってきました。タイには2人の幹部社員が駐在しています。会社の立上げから経験し、経営を任されて大きく成長しました。悩み苦しみながら何とか管理職らしい顔つきになってきました。苦労は絶えないけれど、それぞれの成長が大きな財産です。

日本に残っている後輩社員も、抜けた幹部の穴を埋めるべく奮闘中です。これからも社員がチャレンジできる場をつくり、一人ひとりの成長を楽しみに頑張りたいと思っています。

ASEANの中心として発展しているタイから世界を眺めながら、さらなるチャレンジを続けていく、未来へ続く技術の架け橋となることを願っています。



～取材を終えて～

日本古来存在するこの仕事、鉄を強くするための焼入れという仕事です。古くは日本刀の性能にも焼入れの技術が注ぎ込まれました。理化学工業は機械化されたこの技術を自動車部品製造などに駆使しています。この会社の強みは社員とのコミュニケーション力です。着々と進めてきた「共に汗を流すチームとなること」経営理念の実践です。これは職場として一番到達したいこと、そして羨ましい進化です。年齢の差や業務の違い、考え方の違いを埋めるものとして、社内ではグループ討論などを実施し人事評価や賃金制度がどうあるべきか話し合う、共に考える機会を作っています。社員が本当に働きたいと思わなければ、会社の発展はない、森嶋さんの持論に私たちは大きくうなずきました。

エネルギー問題では電気・ガス料金の引き上げがコストに大きく影響し、円安が原材料の高騰を招きます。この先のモノ作り大阪が元気であるには中小企業でもチャンスを逃さず前へ進んでいかないことには始まらない、大阪だけ、国内だけの視野では駄目だということを、この取材を通じ、感じています。

（情報・広報部 西岡・藤本 写真：荒田）

Profile

企業名：理化学工業株式会社

所在地：大阪府八尾市西弓削

URL：<http://www.rk-k.jp>

創業/設立：1969年/1982年12月

資本金：1,500万円

売上高：9億5千万円（前期実績）

社員数：73名（2016年2月現在）

業務内容：金属熱処理加工・光輝焼入、焼戻、塗装加工・ジコラム、表面処理加工

タイ子会社：リカ JTWヒートトリートメント

資本金：1億3千万円

売上高：1億6千万円（前期実績円換算）